

市民と歩む議員の会

議会報告 いけぶち佐知子



発行：「市民と歩む議員の会」 〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 (市議会内) TEL：06-6384-1390(会派控室) 2023.05 No.75【通巻146】

■ 今任期は5月26日まで

今任期最後の定例会が、2月20日から3月23日までありました。任期初めに議員としてやりたいと約束したこと、これまで提案してきたことの最終の詰めを行う質問を以下の項目に沿って行いました。

- ① いのちをはぐくむ
- ② くらしを守る
- ③ まちをつくる
- ④ ひとをつなげる

それぞれの解答は、まだ納得できるものではありませんでしたが、少しずつでも市民のための政治が実現するために、「遅々として進む」ことが大事だと思います。

5月26日の任期満了まで、吹田市議会議員としての役目をしっかり果たしてまいります。



■ 2月定例会 任期最後の議会質問(抜粋) (詳しくは2月定例会議事録をご覧ください)

<いのちをはぐくむ>

質問 本当に手を差し伸べなければならない親子にも**手が届く支援**を求めます。

答弁 育児不安や負担感の軽減を図り、孤立した子育てを無くせるよう、特に未就園児を育てる家庭に対する**支援強化に取り組む必要**があると考えます。

質問 インクルーシブ教育推進のため、現場の先生との情報共有を行い、吹田市の実情に応じた**独自のインクルーシブ教育の構築**をしていただきたい。

答弁 現場の教職員で構成する研究会や東京大学の知見や助言を活用している。令和6年度実施に向けた人材配置や環境整備など、協議をしている。

<くらしを守る>

質問 子どもと高齢者が触れ合う機会、ひきこもり・ニート・不登校と呼ばれる若者と家族の支援、ヤングケアラーと呼ばれる子ども青少年が**ホッとできる場が必要**です。

答弁 不登校やひきこもり、ヤングケアラーなど、各種の課題や悩みを持つ青少年とその家族が支援機関等につながるよう**積極的に情報発信**を行い、地域の方々の協力を得ながら、**居場所の提供と充実**に努める。

質問 任意後見制度について吹田市の現状は？

答弁 吹田市成年後見制度利用促進計画に沿って具体化の検討を進めている権利擁護支援の中核となる機関と**効果的に連携**し、より細やかな**相談支援体制を整備**していく。

<まちをつくる>

質問 公園の魅力向上もよいが、**災害対応の設備**を新設あるいはリニューアルする公園には必ず備えていただきたい。

答弁 魅力向上事業の対象である8都市公園の**防災対応の充実が必要**である。既に再整備工事に着手した桃山公園、江坂公園に加え、今後、実施する魅力向上事業においても、防災機能の充実を検討していく。

質問 交通事業者の視点だけでなく、**市民の視点でのバリアフリー事業**が必要ではないか。

答弁 令和5年度より現行のバリアフリー基本構想見直し、新たにマスタープラン等の作成に着手し、事業内容について精査する予定である。**見直しや作成には市民視点を取り入れる必要**があると考えている。

<ひとをつなげる>

質問 以前提案した、**ガンバ大阪とのコラボ**による読書通帳を新入生だけでなく、全校生徒に配布することを提案します。

答弁 **すいぽん通帳(読書貯金)**の小学校全学年への配布について、関係所管と協議していく。

質問 **地域の人材**を生かして、小中学生の皆さんに、講演や実演をしていただく機会を持ってはどうか。

答弁 地域の人材を学校にお招きし、体験活動や講演等を通じて、子どもたちが**将来の夢や希望**を抱き、その後の生き方につなげられるような**キャリア教育を推進**していく。

大阪維新の会吹田から議員定数削減条例案提案

大阪維新の会吹田から提案された「吹田市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について」「市民と歩む議員の会」は以下の意見を述べ**反対**しました。以下、■ 困みは提案理由です。

提案議員の所属政党は、身を切る改革として、議員定数の削減をそれぞれの議会で提案している。

提案議員たちが、今の36人という議員定数が本当に妥当なのかという問題意識を常に日頃から持っていれば、議会運営委員会などで提案することも可能でした。しかし、この条例案を提案すると言われたのは、2月定例会半ばであり、内容説明は聞いていません。

多様な社会において、意思決定をしていく市議会においても、**多様性を実現**していくためにも、一定の議員数は必要です。市議会が1チームとして、首長と一定の**緊張感を保った関係性**は、市政を監視する立場としても**必要不可欠**です。

以前に議員報酬や議員定数の削減、また議員任期を変更する場合は、任期終了のやはり最低でも1年前には決めないと、立候補しようかどうか考えている人にとって、立候補するしないの判断材料にもなるという話を議員間でした記憶があります。**少なくとも1年ほど前には決定**をするなど、慎重な対応が求められるのではないのでしょうか。

4月の市議選を控えて、一月もない中で、急に今、提案するようなものではないと思います。提案議員たちはどういう見識をお持ちなのか疑問です。

地方自治体において歳出削減は喫緊の課題であり、歳出削減のために議員定数を削減することは、議会としてもそれに寄与することができる。

議員定数を削減すれば、議員報酬掛ける人数分の歳出削減はできます。

しかし、歳出削減＝議員定数削減ではありません。**二元代表制の一翼を担う議会**の議員を減らさなければならぬほど、吹田市の財政が逼迫しているのであれば、それは議員定数を減らすのではなく、議員報酬を減らすことも可能です。なぜ報酬額ではなく、定数を減らすほうに話を持っていくのか、わかりません。

行政の公権力に対する議員の公権力は、市民のための市政を実現する上でとても大切なものです。特に、市民の声を届ける市政を目指されているのであれば、その声を届ける議員数の削減を提案されるということは、**自己矛盾**していないかを十分に検討していただきたいです。

また、首長の横暴を止めるのも議員、議会の役割です。首長と議会が対等な立場で、違う立場から市政を考え、市民と共につくっていく、そういう市議会こそ市民の声が届く市政ではないのでしょうか。

議員定数の削減により市民意見を聞く機会が減ることを懸念する声もあるが、SNSなどにより今まで以上に広範な声を聞くことは可能である。

データや根拠を示されていないので、何を根拠に言われているのか分かりません。

直近の令和3年度総務省情報通信利用動向調査では、SNSはほぼ全ての年齢階層で利用が増加しているものの、それは従来からの知人とのコミュニケーションのための割合が高く、例えば災害発生時の情報収集・発信のためは3割にも満たない状況です。つまり、SNSで様々な年代、背景をお持ちの市民の意見を広く聞くことは、まだまだ難しい状況です。

一人一人の活動量が増加、活動の質の向上が期待され、効果的・効率的な議会運営も可能となる。

議員定数を減らせば、議員の活動量が増加するものでもなく、活動の質が向上するという、どこに根拠があるのか分かりません。また、効果的・効率的な議会運営と言われますが、効果的はともかく、**効率性を求め過ぎて**、市民の意見や思いが**そぎ落とされていく懸念**があります。現に、特定の政党所属議員が多数派を占めた議会において、その政党の主義主張どおりの議会運営、議会での議決となっている例がありますが、それは本来の**民主主義の学校**と言われる**地方政治の形**ではないと考えます。

「市民と歩む議員の会」議会報告のいけぶち佐知子版をお読みいただき、ありがとうございました。今回をもって、最終号とさせていただきます。今後も「市民と歩む議員の会」をよろしく願います。



しっかり市民派
ずっと無党派

「市民が主役」の
住み続けたいなる
まちを創りましょう！



「市民と歩む議員の会」
いけぶち佐知子
いそがわゆか

TEL:06-6384-1390 facebook.com/shimin10ayumu/
TEL:06-4861-7418 Mail:info@ikebuchi-sachiko.net
TEL:06-4864-2874 Mail:510yuka.suita@gmail.com

